

ハチとアブの一番のちがいは、翅の枚数です。ハチは翅が4枚なので、空中停止（ホバリング）が得意です。アブは翅が2枚なので、空中停止は苦手・・・というかほぼ不可能です。アブの仲間…例えば高原の農業地帯に多い「ウシアブ」は、まっすぐにしか飛ぶことができず、自動車の排気ガスを動物の呼気と間違えて、エンジンをかけた自動車に突進してきます。

夏の八島湿原でも、マツムシソウにとまっている虫を見つけました。マツムシソウ（松虫草）は高原の野草で、「マツムシが鳴く頃に咲く」という意味だそうです。とまっているのはハチに見えたのですが、よく見るとこれは翅は2枚で、私でも「ハナアブ」とわかりました。ハナアブ（花虻）は、幼虫時代はあまりきれいでない水中で育ちますが、成虫は花から花へと飛び回ります。

「花と昆虫」の組み合わせは、すばらしい写真の題材です。しかし、コンデジ（コンパクト・デジタルカメラ）では、ピント合わせに限界があります。今回は、ちょっと重い「デジタル一眼レフカメラ」持参で、挑戦したいと思って

(2024年8月上旬／長野県八島湿原)

